

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援たんぽぽ					公表日	令和7年 2月 21日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点						
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			・指導訓練室は32.58㎡あり、利用定員を10名と定めてある。活動する上で適切なスペースを確保している。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		・職員が定着するようにしている。	・充足している					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・保育室は日当たりのいい部屋にしている。すぐに園庭にでれる部屋にしている。	・日常的に過ごすのは、隣接する保育園の1室を利用している。入口が2か所あり、1か所はバリアフリー化しており、車いすの子も利用できるようにしている。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			・感染症予防として換気と消毒、手洗い、検温を実施している。散歩や庭遊びをした時にはお湯などで足を洗ってから部屋に入るようにしている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		・日常生活を過ごす部屋だけでなく、絵本の部屋や金魚がいるスペースへ気分転換をしに行く。	・不安の大きい子には個別の対応がとれるように体制を確保していくようにする。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・日々の子どもの姿を語り合い、子どもの気持ちや願いを探る。	・職員でその日の振り返りをするとともに、子どもの姿を出し合い。子どもの気持ちを探り、取り組み内容や必要な支援を計画・実践し、見直している。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・定期的に自己評価を行ない、業務内容を見直している。	・アンケートのほか、お迎え時に声をかけ、保護者の要望、悩みなどを聞き取っている。避難訓練なども保護者の要望で、子どもが出席した日に実施し、様子をノートなどで知らせるようにした。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・職員同士の打合せの時間を設け、子どもの姿や悩みがあれば話し合う。	・子どもがいない時間などに打合せ時間を設けるなどして意見を出し合う機会をつくるようにしている。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%		・外部評価は実施していない。					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・障害についての学習や、子どもの様々な発達について学ぶ(性の学習会・虐待防止・リズムあそびなど)	・各種研修に積極的に参加した。					
適切か	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		・日々の支援につなげるため、職員間で何度も話し合い、作成した。	・今後は支援プログラムに基づいた個別支援計画を作成していく。支援プログラムは定期的に見直していく。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		・複数の職員で検討する。職員の打合せで話したことをふまえ、日々の保育で活かせるように計画を作成している。 ・独自に作成しているアセスメント表には、その子の発達状況や家庭での様子が捉えられるような項目を設けている。 ・アセスメント時には、環境整備として、別室で子どもの保育をして話しができるようにしている。	・計画を立てる時には、丁寧な聞き取りを行なうために環境を整え、保護者が言いやすい雰囲気を作るようにしている。					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			・アセスメントでは興味のあること、苦手なことなども聞き取り、子どもの姿をより的確に把握できるようにした。					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%								
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%								
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・支援プログラムにもとづきそれぞれの支援項目、支援内容を決めている。 ・適切な支援計画作成のため、保護者に声をかけ、困りごとなどないか、聞くようにしている。	・子どもの姿を発達保障の視点で見つめ、課題を明らかにするとともにその子の好きな分野を生かして支援計画を立てている。 ・3歳以上になると保育園・幼稚園に入園希望される方も多く不安もあるため、これまでの経験を話すなど相談にのっている。					

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・職員で子どもの姿を出し合い、いろいろな角度から子どもをとらえるようにする。	・ままごとや絵本、ボール遊びなど誰もが親しんでいる教材や遊びを準備し、その中で一人ひとりの様子に合わせて活動を考えている。まずは保育者と一緒に楽しく遊ぶ体験を大切にしている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			・散歩など体を十分に動かすようにしている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			・一人ひとりの好きな遊びをたっぷり保障し、“あれやりたい”と自ら遊びを始める意欲を育てる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		・子どもへの必要な配慮についても確認する。	・その日の担当や役割を確認するとともに、前回の様子を振り返る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		・日誌に記録を残す。	・日々の打合せで子どもの姿や、その日の取り組みを振り返る。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・子どもの姿を具体的に書く。	・日誌にその日の取り組みとともに、子どもの様子を記録している。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		・「できる・できない」と目に見える変化だけをとらえるのではなく、子どもの内面の育ちも把握し、成長を確認する。	・半年に1回保護者との個人懇談を持ち、子どもの成長や課題を話し合い、個別支援計画に反映させている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		・担当者が参加するようにしている。	・積極的に参加している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		・積極的に連携を図っている。	・相談支援事業所や療育センターなどと連携している。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		・移行期には保護者の方の不安も大きくなるので、知りたいことや不安なことを率直に出してもらい、内容に応じて対応している。	・相談支援事業所や保育園と連携して、情報共有を図るようにしている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%		・何かの時にすぐに連絡がとれるように、児童発達支援センターの状況など把握するようにしている。	・自立支援協議会の児童部会の学習会や研修等で交流したり話を聞く機会を作っている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%		・保育園の一時保育の子どもたちと一緒に遊ぶ。	・保育園に隣接しているため、日常的に交流している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・ノートにはその日の様子の写真も貼るなどして、具体的な姿が伝わるように工夫している。	・毎日の連絡ノートやお迎え時の個別面談で、子どもの様子を具体的に伝えるとともに、保護者の不安や家庭の状況を聞き取り、子どものことを一緒に考える。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		・契約時には時間を取って丁寧に説明している。	・担当者から説明している。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		・食事、排泄、睡眠など日常生活での困りごとを抱える保護者も多いため、デイの様子を伝えながら、一緒に対策を考えている。 ・友だちとの関わりの中で、“友だちと一緒にうれしい”などの気持ちから、家庭とは違う姿を見せることもある。それを丁寧に伝えながら、子育てに自信や安心感がもてるように支援している。	・最初の計画作成時や、半年に1回の計画の見直し時に、保護者の要望や意見を個別に聞いて計画に反映させている。 ・保護者の要望を盛り込んだ計画が作成できたら、個別に説明を行ない同意を得ている。 ・日々の送迎時に日常生活の中でおきる困りごとにも気軽に話してもらい、相談にのっている。 ・保護者同士のつながりも大切にしている。懇談会は年に2回は実施して、保護者同士で情報交換や交流できる機会を設けている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		・ホームページで活動概要を伝えている。	・子どもたちが意欲的に活動に向かえるように、また保護者の方も不安にならないように、行事や持ち物についてなど定期的にお便りをだした。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・資料は鍵のかかる書庫に保存している。 ・パソコンはパスワードを設定するなどしている。	・個人情報の取り扱いは、職員全員に徹底するとともに、個別に相談を受ける場合には、個室で行なうなどの配慮をしている。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		・機会があれば、行事など積極的に企画している。	・今後、地域とも関わっていける行事などを行なっていくようにする。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		・毎月避難訓練を実施している。 ・プールの前には蘇生法の実技研修を実施している。 ・災害はいつ発生するか分からないため、色々な時間帯に実施している。	・各種マニュアル、BCPは策定している。また、事故予防のための安全規程なども策定して、保護者、職員に内容を伝えるようにしている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		・アレルギーのための食品除去が必要な場合は、前もって保護者に献立表を渡して確認している。 ・全員がアレルギーの食品を除去した献立にするようにしている。	・アセスメントシートに、服薬やアレルギー等について記入する欄が設定してある。 ・医師の指示書を提出してもらっている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		・契約時に安全計画について説明している。 ・職員は安全に関わる研修や、訓練に参加している。	・緊急連絡先を確認することや、避難訓練、引き取り訓練などあれば、その都度口頭やノート等でお知らせする。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		・非正規の職員も安全のための委員会には順番に参加している。	・安全のための委員会を隔月に実施している。 ・ヒヤリハット事例や事故などが起きた場合の原因と対策を検討している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・着替えの時など異変がないか確認する。 ・施設内での虐待防止のために複数で保育するようにしている。 ・虐待早期発見チェックリストなど活用し、職員同士でも話し合うようにした。	・虐待防止委員会を開催した。 ・虐待防止に関する研修会に積極的に参加している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		・人権の尊重をする視点で支援を行なっている。 ・身体拘束に適正化委員会を開催、ケースごとに職員間で検討した。	・危険回避のため、やむを得ず行動を止めたりした時は、状況を日誌に書き込めるようにした。 ・やむを得ず身体拘束を行なう場合は事前に保護者にも説明した上で児童発達支援計画にも記載していくようにする。